

令和7年度 第59回 中学生の「税についての作文」

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞

『税の必要性』

町田市立町田第二中学校 3学年 小俣 侑禾

私のお気に入りの番組「世界の果てまでイッテQ!」では、珍しい国や文化を求めて世界中で旅する企画が見られる。以前紹介された「ナウル共和国」は「日本人に最も人気のない国（日本人が最も行かない国）」として取り上げられていた。自分自身、あまり聞いたことのない国名だったので興味が有り、さらに調べてみると、なんと「税金の存在しない国」という情報が目に飛び込んできた。私はそんな国があることさえ知らずにいたので、自分の目を疑ってしまっただったが、どうやらナウル共和国というのは、島全体が、リン鉱石という資源そのものでできているらしい。その輸出によって得た莫大な収入により、税金の必要がなくなったそうだ。そのため、医療費、教育費、公共料金などが無料。生活費も国から支給。加えて、結婚した際には新居がプレゼントされ、全年齢層に年金が配布される。まるで楽園のような国だ。しかし、別の視点から考えてみたらどうだろうか。私は中学一年生のとき、社会科の授業で「モノカルチャー経済」について習ったことを思い出した。それは、特定の農産物や鉱物資源の生産・輸出に経済が大きく依存している状態のことである。リン鉱石一つで栄えているナウル共和国も、これに当たるのではと考えた。だから、価格変動や天候の影響

を受けやすく、経済の不安定さなどの問題を引き起こす可能性が高くなってしまふ。そうになると、失業者で溢れ返り、そもそも働いたことのない人が殆どという状態で、経済の回復が難しい。決して、良いことづくしではないのだ。そこではじめて、人々は税金の大切さに気付かされる。税金は、気候変動によって左右されることがなく、安定しているからだ。特に日本は、地震などがよく起こる、災害大国である。だからこそ、復旧のために税金にどれだけ助けられているかを理解しなくてはいけないのではないか。

母が最近、市役所でこんな言葉を発している人を見かけたという。

「税金なんて何に使ってんだよ。俺は何にも使っていないから払わないぞ。」

私はその人たちに尋ねたい。

「市役所までの道のりで、あなたは道路さえも使わずにどうやって来たのですか。」と。道路は例えばの一例だが、私たちが当たり前のよう安心して安全に利用しているものの中には、税金によって成り立っているものが多くある。それを知ったうえで、自分たちの住む街が綺麗でいられること、無料で学校へ行き、こうして楽しく学べること、病院で安く診てもらえること、そしてなにより、「生きる」に繋がり、今こうして笑っていられること。そのありがたみを、忘れてはならない。税金によって支えられている今ある生活に感謝し、また明日から、税金とうまく付き合っていきたい。